



羅針盤

社会科部 情報活用委員会

授業づくりを楽しむ

男川小学校 校長 中西 勉

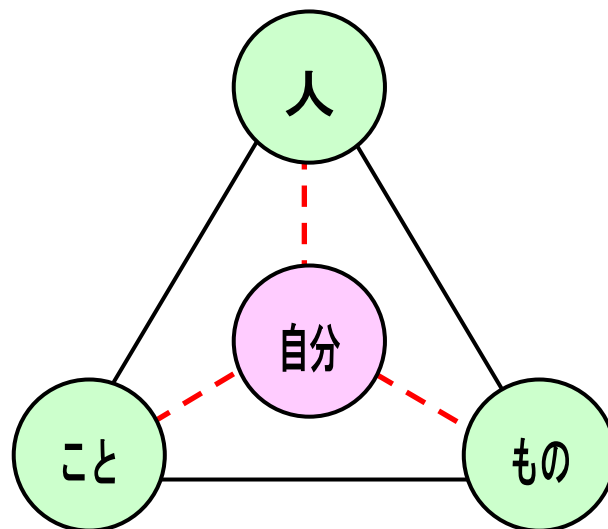
「社会科教師が授業づくりを進める上で、大切にしたい体の部分はどこですか」

これは、8月1日に岡崎市民会館で行われた愛知県社会科教育研究大会（愛社研）で、第4分科会の助言者を務めさせていただいた私が、参加された先生方に問いかけた一言です。この問いに対し、A先生は少し迷いながら「耳です」と答えられました。また、B先生は自信ありげに「目です」と言われました。さすがA先生とB先生、岡崎の社会科部を支える中堅教師として、非常に的確な答えをされました。

私が大切だと考える体の部分を三つ挙げると、「足」「目」「耳」となります。それは、“足”→現地に赴いて学びの対象となる「人・こと・もの」に関わる情報を丹念に集める（＝足で稼ぐ社会科）、「目」→本物を見る、そこに潜む問題を見抜く、変化や違いに気付く、「耳」→そこで暮らす人の生の声を聞く、学びの対象に対する子供たちの思いを丁寧に聴く”ということが、社会科の授業づくりで何より大切だと考えているからです。

しかし、教師がこのように「足」「目」「耳」をフルに働かせて授業づくりを進めても、それが子供たちにとって切実感のある問題、つまり「自分事」にならなければ、子供は主体的に学ぶことはできません。そこでポイントとなるのが、子供が学びの対象となる「人・こと・もの」と「自分」の関わりがいかに気付けるようになるかということです。右に示した図の赤の破線部分のつながりを、子供が自ら気付けるようにするために、教師は様々な仕掛けを講じる必要があります。この仕掛けを作ることこそが、正に社会科教師としての腕の見せ所と言えるでしょう。私は、仕掛けを作っていく中で、「これを子供に提示したら、きっとこんな反応をするだろうな・・・」と思いを巡らせていましたが、その時がとてもわくわくして大好きでした。

皆さんも、ぜひ自分で社会科の教材を開発することを通して、この楽しいひと時を味わってください。教師自身が社会科の授業づくりを楽しむことが、社会科好きな子供を育てる最善の方法なのですから・・・。



▲「自分」と「人・こと・もの」の関わりを考えるイメージ図

令和5年度社会科研究作品展

岡崎市内の小中学校から、138点の作品が「りぶら」に展示されました。どの作品も、疑問に思ったことから、現地に調査へ出かけて調べたり、聞き取り調査をしたりするなど、すばらしい研究でした。また、学校代表作品として出展された全ての作品が、入選作品として表彰されました。



県教研 正会員

◆第73次教育研究愛知県集会

【小学校】

広幡小 内田 敏明先生
翔南中 中西 歩澄先生

【中学校】

福岡中 平川 愛先生
東海中 太田 信先生

「愛知県社会科教育研究大会」報告 ※岡崎市の発表は令和6年度の予定

8月1日（火）、岡崎市民会館において愛知県社会科教育研究大会が開催されました。市内から40名以上の先生方に参加していただきました。文部科学省 初等中等教育局教育課程課 小倉 勝登先生による講演、分科会では、安城市、新城市、豊橋市、知立市、北設、みよし市の実践発表が行われ、中西 勉先生（男川小学校長）、竹平 真仁先生（矢作北小学校長）が助言者としてご活躍されました。

発見！一押し地域教材！

「ふれあいドーム岡崎」（六ツ美中部小学区）

★授業への活かし方

六ツ美中部小学校 佐藤 菜美

○小学3年生 単元「働く人とわたしたちの暮らし」

○学習課題

「どうしてふれあいドーム岡崎にお客さんがあつまるのだろうか」

★この教材を使い、工夫した点

① ふれあいドーム岡崎と他のお店を比較する

買い物に行く機会が少ない子供たちは、スーパーによって商品の種類や品数が違うことに驚いていました。「野菜のとなりにレシピが書いてある」「ふれあいドームのお花は、ひとつひとつに生産者の名前が書いてある」と比べて気づいたことを伝え合っていました。他のお店と比較したことで、ふれあいドームならではの魅力に視点を当てて考えることができました。

② 学んだことを発信できる機会をつくる

何度も見学に行くうちにお店が大好きになった子供たちは、お店の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいという思いからポスターを制作しました。ポスターの中には「地産地消」「新鮮」などの言葉が使われており、生産者の思いをくみ取って消費者へ繋げようとする姿が見えました。完成したポスターをお店に掲示してもらったこともあり、子供たちの地域に対する愛情を深めることができました。



必見！授業技！ ～ノートの手紙～

(写真1)

南中学校 藤田 幸美

【パターン1】⇒紙のノートを使用

ノートを縦に三分割する。左側半分を授業の板書まとめ。真ん中を授業中での自分の気づきや大切と感じたことなどをメモ。右端は、授業で分かったことやもっと調べてみたいことをまとめる。(写真1)

授業の感想や挙手は、別の振り返りシートを使用。(写真2)

【パターン2】⇒タブレットのスクールタクトを使用

左半分に授業中の板書まとめ。右半分は、自分でまとめや調べ学習。

右下に感想を記入。(写真3) 提出ボタンを押し、提出。紙のノートを使用したい子は、写真を撮りスクールタクトに貼り付けて提出。

【成果】

○両パターンとも、右側の欄の授業まとめや調べ学習を活用し、自分の学びを深めることで、授業内容に興味・関心をもつ子が増えた。また、パターン2では、カラーの図やグラフ、写真を入れることができ、教科書の文章を視覚化してまとめることできる。生徒も、まとめやすいと話しており、学習の理解を深めることに繋がっている。

○パターン2は、教員がリアルタイムでノートの進捗状況や提出状況を把握できる。

○パターン1では、自己評価カードを毎時間授業後に集めているので、生徒の疑問や考えに沿った授業を行うことができている。

(写真3)



(写真2)

